

私へのワークライフバランス

藤岡 彰

藤岡皮膚科クリニック院長

ワークライフバランスというと、肩の力を抜いて自分の世界を大切に日々を過ごすイメージがあります。しかしそのワークライフバランスがたまたま接した人の人生に大きな影響を与えたとしたら、そんな話を綴ってみます。

大学の3年生が終わるころ、私はある皮膚症状に困っていました。評判の高いX大学病院の皮膚科を受診してYZという医師の診察を受けたのですが、その診療態度に、昔役所の窓口によくいたある種のタイプの人たちを重ね合わせていました。来週の自分の日に来るようにいわれて薬を処方されたのですが、翌週受診すると自分は初診医だから断固みないとして再診に回されました。しかし検査も出し忘れており、結局診断も不明でした。投薬された薬の意味もわからず、すっかり途方に暮れて帰途についたのです。

そのころ英語とドイツ語の両方に堪能ということから、姉が日本を代表するある大学の精神科の蔵書整理のアルバイトをしていました。精神科が大好きで勉強に来られている、吉住五郎先生という皮膚科の先生がとてもよい方だからと姉に勧められ、医局をお尋ねして相談することにしました。皮膚症状について可能性を示唆されるものの断定はされず、「北里大学の西山茂夫先生に紹介状を書きます。わからないときは、適切な先生を紹介するのも、医師として大切な仕事です」といわれたのですが、その言葉はいまでも心に響いています。その後1時間ほど楽しくお話をする中で、嫌な体験とコントラストをなすように、精神科にも造詣が深い吉住先生の人柄と学識にすっかり魅了されていました。春休みの間に吉住先生の紹介状を大切にもって西山先生の外来を受診しましたが、すぐに的確な診断をしてくださり、また親切な説明を受けることができました。ご紹介くださった吉住先生に感謝したことはいうまでもありません。皮膚科に興味をもったのではなく、素晴らしい皮膚科医に興味をもつことで、私は皮膚科へとひき寄せられていったのでしょう。最終学年のとき北里大学皮膚科をもう一度受診しましたが、システム上、再診扱いになりました。しかしお願いすると西山先生は初診のブースからすぐ再診ブースに来られ、快くみてくだ



さいました。後年西山先生に、初めてお目にかかったのは吉住先生からのご紹介でした、とお話したことがあります。姉とは時期が重なっていませんが、西山先生のお嬢様が同じくアルバイトをされていたので、西山先生が吉住先生を直接ご存知なことを知り、不思議なご縁を感じたものです。

吉住先生とは年賀状のみの交流でしたが、水尾徴候の論文を読んだとき、著者が吉住先生のお嬢様だとすぐに気づきました。

吉住先生が皮膚科を専門にされながら、強く興味をおもちの精神科を学ばれるというワークライフバランスをとられていなければ、私が皮膚科という扉の前に立つこともなかったでしょう。長い人生の中のわずかな1時間、しかし私の人生にとって大切な邂逅を、春の陽射しが増してくると懐かしく思い出すことがあります。